

第3回日・アフリカ地域経済共同体(RECs)議長国首脳会合
(総理基調発言)

(9月26日(土) 於:国連内会議室 CR11)

御列席の皆様、

本日は、来年の TICAD VIに向けたキックオフ会合であるこの場にお集まりいただき、ありがとうございます。アフリカの指導者の皆様とこうしてニューヨークで3年続けてお会いする機会を得て、嬉しく思います。

昨年、この場で私は、「次回 TICAD はアフリカで開催したい。今後は日本とアフリカで交互開催したい。」と申し上げました。その約束どおり、次回 TICAD VI は、来年初めてアフリカ大陸で開催されます。ホスト国を引き受けてくださるケニアのケニヤッタ大統領に感謝申し上げます。

本日は、次回 TICAD の成功に向けてどのように取り組んでいくべきか、RECs(レックス)や地域レベルでのアジェンダを実現するために TICAD をどのように活用していくべきか、また、日本に期待されている役割も含め、皆様の率直なお考えを伺う場にしたいと考えます。

御列席の皆様、

エボラ出血熱の流行。ボコ・ハラムやアル・シャバーブといった暴力的過激主義の拡大とテロの多発。国際資源価格の下落。2013 年に開催された TICAD V 以降の2年間、アフリカでは、経済基盤を脅かし、あるいは開発の前提となる平和と安定に対する脅威となる事態が起きています。

しかし、アフリカの人々はこうした困難を乗り越える強い意志を持っています。そして日本は、昨日採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」も踏まえ、アフリカと一緒にその実現をお手伝いしていきます。

来年の TICAD VIでは、保健システムの再構築や過激主義への対応など、TICAD V 以降に特に顕在化した事態に対応する貢献を示していきます。既にケニアに対しては、ケニア政府が目指すユニバーサル・へ

ルス・カバレッジ達成のため、円借款40億円を含む総合的な保健セクター支援を決定しています。

日本は来年から、安全保障理事会の非常任理事国となることを目指しています。安保理の議論の過半は、アフリカの平和と安定に関するものです。日本はそれら議論に積極的に貢献していく決意であり、アフリカの皆様の支持をお願いします。安保理改革を含む国連改革についても、アフリカの皆様と緊密に協力していきたいと考えます。

また、同じ国連の場で、「世界津波の日」を制定する決議の採択を目指しています。皆様のご支持を御願います。

御列席の皆様、

次回 TICAD は、初めてアフリカで開催されます。

日本国内では、TICAD VI に向けた準備を、オール・ジャパンで着々と進めています。官民円卓会議を開催し、日本企業のアフリカ進出促進に向けた官民連携を強化しています。また、アフリカの地域統合に資する広域インフラ開発に向けた取組について、政府一体となって議論を重ねています。

私は、アフリカ初となる次回 TICAD の機会に、是非、日本らしさ、日本ならではの取組をアフリカの人々に紹介したいと考えます。

日本が得意とするのは、何よりも優れた技術です。

SADC(南部アフリカ開発共同体)、ECOWAS(西アフリカ諸国経済共同体)、EAC(東アフリカ共同体)を始め各 RECs 内において、域内広域インフラの整備は優先的なアジェンダであると理解しています。日本は、20億ドルの円借款によるアフリカ開発銀行との協調融資 EPISA(アフリカの民間セクター開発のための共同イニシアティブ)を着実に進めるなど、広域インフラの整備に協力しています。

今後も、モンバサ・北部回廊、ナカラ回廊、西アフリカ地域などで、農

業や都市開発、エネルギー開発や港湾整備等で日本の高い技術を活かし、「質の高いインフラ投資」を通じて、内陸にも裨益するアフリカの広域総合開発にオール・ジャパンで一層貢献していきます。

今年、ルワンダとタンザニア国境のルスモ橋が日本の協力で完成し、ルワンダのコーヒーが中央回廊を通過して日本に今まで以上に輸出されるようになりました。広域総合開発が農業の発展に繋がり、さらには貿易をも促進する好例です。

また、今回のエボラ出血熱対応では、日本企業の高性能のサーモグラフィカメラが流行拡大防止に一役買いました。既にリベリアなど7か国に設置され、さらに多くの国の空港などに設置される予定です。このように日本の優れた技術・製品がアフリカの安定と発展に貢献するのだということを、是非アフリカの人々に広く紹介したいと考えています。

「一人ひとり」を大切にする日本の対アフリカ外交は、人材育成を重視します。

経済・社会発展のためには、国造りの基本となる人材育成が何よりも重要です。私が TICAD V で打ち出した「ABE イニシアティブ」により、既に約500名の若者が日本で学び、日本企業で訓練を受けています。彼らが日本で身につけたものをアフリカに持ち帰り、それぞれの国の開発に貢献することを願っています。

また、エチオピアでは、これまでに約4万4千人の技術者が「カイゼン」の訓練を受け、その結果、関係する工場で不良品率は半減しました。

私は、TICAD VI に向け、若い人たちに技術を習得する機会を提供する ABE イニシアティブをさらに充実させたいと考えます。そのための方策を現在検討しているところです。

そして、日本はアフリカのオーナーシップを尊重します。

アフリカ・アジェンダ2063が目指す社会・産業構造の転換、これは資源に依存しない産業の育成だけでなく、農業生産性の拡大、包摂的な教育と女性の社会進出なども含むものです。日本は官民で連携しな

がら、既にこの目標に向けた取組を開始しています。

「メイド・イン・アフリカ」が国際ブランドとなるよう、日本は協力を惜しみません。

TICAD VI は、20年を越える TICAD プロセスの新たなページを開くものとなります。日本は、アフリカ各国及び各共催者と協力し、日本とアフリカ、そして国際社会全体のために次回 TICAD を成功させる決意です。

ありがとうございました。

(了)